



後天性眼瞼下垂について

形成外科 宮下 松樹



眼瞼下垂症は、生まれつきまぶたをあげる機能が弱い先天性眼瞼下垂症と、後天的な要因で生じる後天性眼瞼下垂症に分かれます。大人になってからなる後天性眼瞼下垂のほとんどは加齢の影響によるものです。

まぶたの芯となる部分（瞼板）とまぶたを挙げる筋肉（上眼瞼挙筋）の間をつないでいるすじ（腱膜）が、加齢によりたるんできて、筋肉の力が瞼板に効果的に伝わらず、まぶたが上がりにくくなるのが原因です。また皮膚のたるみや筋肉の衰えも原因となり、ハードコンタクトレンズを長年つけていた方、化粧や花粉症など、まぶたをこすることで腱膜がこすれて、瞼板との結合がゆるみ眼瞼下垂になることもあります。

これにより物が見えにくくなり、眠そうな印象を与えます。また、おでこの筋肉（前頭筋）を利用してまぶたを上げようとするためまゆ毛の位置が高くなり、額のしわが目立つようになります。頭痛、肩こりの原因になることもあります。

治療法としては

①余剰皮膚切除術

余剰（弛緩）して垂れさがった上眼瞼皮膚を切除する方法です。上眼瞼皮膚を切除する場合と、眉毛下で皮膚を切除する場合があります。

②挙筋前転術

腱膜を瞼板に縫い付ける手術です。上まぶたの皮膚を切開し、たるんだ腱膜や筋肉を前方に引っ張り、糸で瞼板に縫い付けます。この手術により腱膜のたるみが改善し、上眼瞼挙筋の力がしっかりと瞼板に伝わり、十分にまぶたが開くようになります。

③前頭筋吊り上げ術

上眼瞼挙筋の機能低下が強く、挙筋前転術では改善できない重度の眼瞼下垂症に対して主に行われます。太ももの筋膜や糸などを用いて瞼板とおでこの筋肉を繋ぎ合わせる手術です。

十分にまぶたが開くようになるために、視野がよくなります。またおでこの筋肉を利用してまぶたを上げようとしていた方は、頭痛や肩こりがよくなることが期待されます。

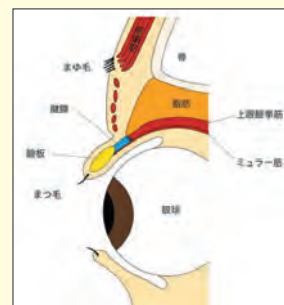


図1：正常なまぶた

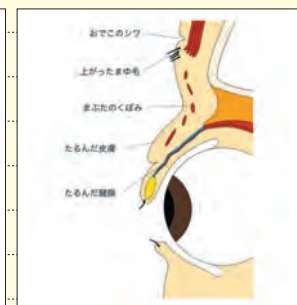


図2：加齢性眼瞼下垂症

1 月分

研修・講演・学習会のご案内

※令和3年1月は、地域連携症例検討会の開催がありません。
次回の開催は、**2月9日（火）19時から**を予定しています。
ご参加をお待ちしております。



予告

地域連携症例検討会

日時：2021年2月9日（火）19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

1）症例検討

①腎臓内科から1例

②産婦人科から1例

2）ミニレクチャー 1題：（担当）泌尿器科

※定例の研修会、看護研修、衛星研修S－Q U E 視聴研修

当面の間、開催を中止いたします。

衛星研修S－Q U E研修の資料をご希望の方は、ふれあい地域医療センターへご連絡ください。

S-QUE Eナース

○配信期間 1月12日～2月9日 がん化学療法看護の知識と看護師の役割

○配信期間 1月25日～2月22日 事例で解説！がん治療関連による皮膚損傷のケア

ふれあい地域医療センターからのお知らせ

日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。

年末年始のふれあい地域医療センターの業務については以下のとおりとなっておりますので、
よろしくお願いいたします。

12月29日（火）～1月3日（日）休み 1月4日から通常通り

※なお、救急患者さんの対応に関しては、**救急センター**へご連絡ください。





研修医のひとりごと

臨床研修医
蜷川 竣也



他県での研修を通して

こんにちは、富山市民病院研修医の蜷川竣也です。2年間あった初期研修期間も残り数か月となりました。

私は基本的に富山市民病院にて研修医生活を送ってきましたが、すべての期間を当院で過ごしたわけではありません。実は数か月の間、石川や沖縄、岩手といった他県の病院でも研修を行っていました。

他県の病院は、土地も違えば人も違うわけですから、当然病院の理念や強みなども異なります。研修

するにあたっては業務や土地に慣れることが大変でしたし、時には訛りで言葉がわからないことがあり少々苦勞したなんてこともありました。しかしながらどの病院でも、先生方が口をそろえていう言葉があり、それは「患者さん1stであれ」というものでした。病院は違えど、医療者としての根本的な理念はどこも変わらないのだと実感させられ、他県での研修は今一度この理念の大切さを再認識できた良い研修になったのではないかと思います。今後いろいろな病院で多くの患者に会い仕事をしていくと思いますが、この理念を忘れず精一杯頑張っていきます。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

1月

科 名	医師名	不在日
内科	水野	8日、27日
	茶谷	27日
	能勢	18日
	堀越	15日
	本江	8日
	赤崎	18日
	川根	29日

科 名	医師名	不在日
外科・消化器外科・乳腺外科	中山	27日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。
TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

早いもので2020年も残りわずかとなりました。今年は新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でしたが、「れんけいと支援」を滞ることなく発刊できたことにほっとしています。かわっていただいた皆様、読んでいただいた皆様に厚く感謝申し上げます。

今年は、楽しみにしていた息子の学校行事もなくなり、稲刈りする以外、季節をあまり感じることなく1年が過ぎていったように思います。コロナ禍はまだまだ続きそうですが、家を片付けることや飛来している白鳥を見に行くことなど、自分なりの新たな楽しみを見つけて穏やかに冬を過ごしたいと思う今日この頃です。

ふれあい地域医療センター 石崎 華代



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

